薪集めサポート・ジャパン参加者と「国際森林年」ロゴマークを使用した横断幕

フォレスト
サポーターズ
美しい森林づくり推進国民運動

グループのCSR推進委員会の一つ森林活動保護委員会委員長の羽田龍二さん

今日からやろう！森のための
4つのアクション

森と暮らそう

# 薪から始まる環境活動
# 間伐材をバイオマス燃料として再利用
## ― 日本ファイヤーライフ・グループ ―

日本ファイヤーライフは、元々「美しい森林づくり全国推進会議」に参加していましたが、その活動をもっと身近なアクションにしたかったこと、同時に「フォレスト・サポーターズ」の4つのアクションに共感したことがきっかけで、「フォレスト・サポーターズ」の一員になりました。

平成23年に「薪集めサポート・ジャパン」プロジェクトをスタートさせ、薪ストーブ利用促進と環境活動が一体となる仕組みづくりに取り組んでいます。森林活動保護委員会の羽田龍二さんにお話を聞きました。

### 間伐材の薪利用推進プロジェクト

日本ファイヤーライフ・グループでは、間伐材のエネルギー利用を通して、環境破壊物質の削減と森林保全を目的に「間伐材の薪利用推進プロジェクト」を推進しています。

せっかく間伐した木も使われず山に放置されているものが多くあります。この間伐材をバイオマス燃料として生き返らせ、森林再生と地球環境への貢献につなげていくことがこのプロジェクトの目的です。

### 薪集めサポート・ジャパン

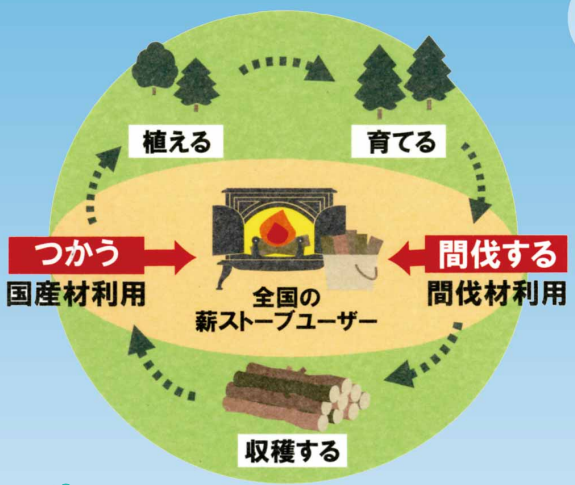
間伐材の薪利用推進プロジェクトの一環として、今年から「薪集めサポート・ジャパン」のイベント活動を行っています。その3回目として、今年の2月27日に茨城県笠間市岩間周辺で薪集めを行いました。今回のイベントには薪ストーブユーザーなど300人が参加したこともあ

間伐材を運び出すことで理想的な森林に近づきます。

イベント前

イベント後

大人に混じって、子供たちも薪を運びます。




理想的な森林づくりのサイクル

ツリーハウスで木とふれあう。

参加者全員が協力して、原木のカットから運びだしまでを行ないます。

原木のカット（玉切り）

薪割り

トラックでの運び出し

## 森にふれよう　木をつかおう　森をささえよう

り、笠間市周辺の3会場に分かれて、間伐材の片付け、運搬や玉切り、薪割りなどを行いました。できあがった薪は参加者がそれぞれの車に積んで持ち帰りました。所有者や行政、森林組合の間伐材を有効活用したいというニーズと薪ストーブユーザーの原木が欲しい、薪づくりしたいというニーズを日本ファイヤーライフがコーディネートすることで、関係者すべてが協力的で喜んでもらえるイベントになっています。

今回のイベントには、家族連れの参加者も多く、子供は大人に混じって、薪を運んだり、ツリーハウスをつくったりと、家族としてのコミュニケーションはもちろん、直接自然や人とふれあえる場になったと思います。

また、日本ファイヤーライフでは、「国際森林年」のロゴマークを「薪集めサポート・ジャパン」の横断幕にも使用しており、何年後かにこの活動が「国際森林年を契機にはじまった」と言えるようなイベントになればと考えています。

その他にほぼ月1回のペースで「薪ストーブ学校」を開催しており、環境に関する講義や、チェーンソーの講習を行っています。

### 今後の活動

現在は当社茨城本店をメインに活動していますが、全国にある店舗でその輪を広げていきたいと考えています。ユーザーも増えることで、薪利用推進と切り捨てられた間伐材の有効活用につなげられればと考えています。そして将来的には間伐材をバイオマスとした地産地消の仕組みを整備し、日本ファイヤーライフが各ユーザーへ薪集めの可能なフィールドの情報提供を行うコーディネータ的役割を担い、ユーザーを中心とした薪集め活動ができるような仕組みづくりができればと考えています。

### 東日本大震災について

今回の東日本大震災においては、宮城県石巻市にあるショールームが避難所としても活用されました。それは、電気がなくても「暖をとれる」、「灯りがある」、「温かい料理がある」からでした。人に温もりを与えるコミュニケーションツールとして、そして薪ストーブの利用が結果として環境貢献につながるような活動を展開してきたいと考えています。